

最優秀賞

— 環境大臣賞 —

未来のまち

再生可能エネルギーを使い暮らす。

風評被害を乗り越え福島でとれた食品を食べる。

福島の良さを知りひとが来る。

そんな持続可能なまちになってほしいとおもう。

10年前私は2才だった。当時は地震について、原子力発電所の事故について何もわからなかった。だが最近になって震災のこわさが分かる。東日本大震災伝承館に行ったとき、積み重なったがれき建物に入り込んだ乗用車。人から聞いていた津波のこわさが実感として分かった。津波の恐怖を自分は話しをきいて知った気になっていたことを知った。

コミュタン福島に行ったとき原子力の怖さを知った。人の作ったもので住んでいた場所から逃げる必要があることに悲しみを感じた。私は、寮から自宅に帰るため、週に一回、帰還困難区域を通る。ブルーシートの隙間から壊れた家が見える。見るたびに心ぐるしくなる。また、福島の食べ物は放射線物質が基準値未満にあるにも関わらず、福島産の食べ物を食べない人がいて、風評被害がなくなることを悲しく思う。だが、福島は東日本大震災で被害を受けた福島で終わってほしくない。福島は震災を乗り越え震災の経験さえも糧とし持続可能な未来のまちであってほしいと思う。最近、地球温暖化が深刻になっている。今日本は80%以上を火力発電に頼っている。そして再生可能エネルギーは18%と低い。それを見た私は、各まちごとに再生可能エネルギーの発電所を作れば無駄なく地球に優しいクリーンなエネルギーを地産地消して二酸化炭素の排出量を減らせるのではないかと思った。福島にある川

福島県立ふたば未来学園中学校1年 トウドウ 藤東 ユウワ 佑和

での小水力発電、海を利用した洋上発電などを稼働すれば効率的に福島の電気エネルギーをまかなえるのではないかと思った。福島は風評被害を乗り越え福島の豊かな自然でとれた食品を食べてほしいと思う。そして、まちで地産地消しよう。そうすれば食品を運ぶときに排出される二酸化炭素の量を減らせる。そしてまちにお金がまわると思う。また福島には、良さがたくさんあると考える。広野町に越してきて福島の豊かな自然、文化を再発見出来た。豊かな森や秀麗な山々や古戦場や庭園。しかし、このような良さはあまり知られていない。これからはこのような福島のよさが広がってほしいと思う。具体的には都市部の子どもが夏休みなどの長期休業のときの地方に行くイベントの需要がとても多いことを知り、このことを福島にもいかせないかと思った。そうすれば交流人口が増え経済も回る。また長期的な視点で見ればその子どもたちが福島に住み定住人口も増えるのではないかと考えた。

このように未来の福島はエネルギー、食品が地産地消でき福島の素晴らしい自然と文化に人が集まる。SDGsでいうところの「8 働きがいも経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりも」「12 つくる責任 つかう責任」「13 気候変動に具体的な対応を」に当てはまる、持続可能な未来のまちになってほしいと思う。